

安芸高田市 中学校統合説明会資料

～教育内容編～

「生徒が主役」 の学校を創る



安芸高田市教育委員会

「大勢の仲間」と関わり合う

授業

多様な考えに触れることができる「学び合い」の授業

すべての学びを保障するため、安芸高田市でこれまで「学び合い」の授業に取り組んできました。「学び合い」の良さを生かし、より多くの仲間の考えを聴き合い、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業を目指します。

放課後

多様な活動でワクワクが増える放課後活動

放課後は「自分のため」の時間として、自分のやりたいことのために使える時間とします。部活動や同好会活動など、「自分のやりたい」を見つけ、生徒自身が自らを伸ばしていきます。

学びの場

多様な学びの場をつくり個に応じた居場所づくり

不登校傾向にある生徒や特別な支援を要する生徒が安心して学べる教室（特別支援学級、通級指導教室、スペシャルサポートルームなど）をつくり、それぞれのニーズに応じた学びをつくります。



＜「学び合い」の様子＞



＜タブレット端末の活用＞

「自分の可能性」を伸ばす

ICT

多様な学習方法で身につける学力

一人一台あるタブレットを使う学習を積極的に取り入れます。授業で使うのはもちろんのこと、家庭学習用アプリなども取り入れて、学力の向上に向けて取り組みます。

探究

多様な人と触れ合い、社会の課題解決の土台づくり

安芸高田市では、これまでも様々な課題を解決する探究学習に取り組んできました。地域の人や安芸高田市外の人とも関わり、様々な課題を解決するためのスキルや考え方、実行力等を学びます。

相談体制

「チーム担任制」で悩みを解決

安芸高田市では学級の担任を固定せず、チームで生徒をみていく「チーム担任制」に取り組んできました。これによって、生徒は相談しやすい先生へ相談することができています。個々の生徒のニーズにこたえられる相談体制をつくります。

校則は生徒たちでつくります！

安芸高田市では、これまでも全中学校で「校則の見直し」を行ってきました。生徒自身が「自分たちの生活の中で本当に必要なルールは何なのか」という視点で、毎年校則の見直しを行ってきました。

新しく統合する中学校では、これまでのノウハウを生かして、自分たちで一から校則をつくっていきます。また、保護者からの意見も反映させ、生徒にとって安心して過ごせ、保護者にとって経済負担の少ない、校則をつくっていきます。

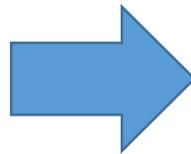
中学校統合で「新しい学校」を創る

〔現状〕

〔統合後〕

固定した人間関係

小さいころから少人数で過ごしているため、気心が知れていて安心感をもてる面もありますが、人間関係が固定化してしまうことがあります。一旦、人間関係が崩れるとしんどくなってしまいう生徒がいます。また、授業では多様な考え方が出にくい場合もあります。

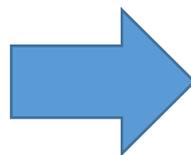


多様な関わりと多様な考え

違う町で育ってきた新たな仲間との出会いで、新たな人間関係をつくり、幅広い仲間とのつながりができます。たとえ人間関係が崩れても、新たな人間関係を構築しやすくなります。また、関わる仲間が増える分、多様な考えに触れる機会も多くなる可能性があります。

選べない部活動

人数が少なく毎年部活動の存続を検討しています。また、1校で単独チームをつくれなことが多く、合同チームで大会に参加している学校があります。小規模校では多様な部活動をつくるのが難しいため、自分のやりたい部活動がなく、希望とは違う部に入部している生徒もいます。

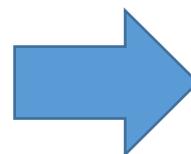


選択肢が増える部活動

部活動の種類が増えるため、多くの選択肢から部活動を選択することができます。自分のやりたい部活動に所属し、同じ志をもつ大勢の仲間と一緒に取り組むことで、自分を鍛え伸ばすことができます。

少ない教職員

安芸高田市では現在「チーム担任制」に取り組んでいます。担任を固定しないことで、生徒は相談したい先生を選ぶことができますようになっています。しかし、小規模校には、数人の先生しかいないため、生徒が相談したいと思う先生がいない場合もあります。

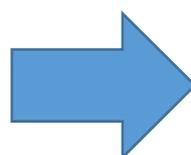


効果的なチーム担任制

統合中学校には、約30人の先生が所属します。人数が増えることにより、生徒は自分が相談したい先生に出会える可能性が増えます。学年に所属する先生も7～8人になり、チームで生徒の様子を見る際に、多様な視点で生徒のよさや課題を把握することができます。

教科指導に悩む先生

小規模校では、ほとんどの教科が、担当者は一人です。教科の指導で悩んだときなどに、すぐに校内で相談できる同僚がおらず、困ることがあります。同じ教科を指導する先生が複数いないということは、相談する相手がおらず、授業力を高めることも難しくなります。



同じ教科で指導力向上

国語、社会、数学、理科、英語、保健体育については、複数名の先生がいることとなります。一緒に教材を作ったり、困ったときに相談し合ったりして、生徒に力をつける授業づくりに協同して取り組むことができます。

放課後は「自分のための時間」

生徒の興味関心は多様化しています。放課後は「自分のための時間」として、自分のやりたいことのために使える時間とします。「自分のやりたい」ことを見つけ、生徒自身が自らを伸ばしていきます。

日課表

	月	火	水	木	金
朝会	8:30スタート!				
1	授業				
2					
3					
4					
5					
放課後	自分のための時間 16:30下校				

※通学の時間を考慮して、基本的には5時間授業を行います。
その分夏休みを短くして、授業時間を確保します。

部活動をやりたいAくん

⇒ 野球部で活動



野球が大好きだから野球をしたいな。自分たちの学校だけでチームを作れるから、思い切り練習ができそうだな。

自分の興味あることをやりたいCくん

⇒ 同好会で活動



部活動よりもプログラミングに興味があるな。同好会をつくって活動したいな。

勉強を教えてほしいBさん

⇒ 学習タイムで勉強



授業だけでは分からないことがあるから、個別で勉強を教えてもらいたいな。

習い事のあるDさん

⇒ 帰宅



習い事に力を入れているから、放課後は帰って習い事の準備をしたり、体を休めたりしたいな。

【検討している放課後の活動（例）】

- ・部活動（内容は検討中）
- ・同好会活動（内容は検討中）
- ・学習&読書タイム
- ・相談タイム
- ・外国語サポーターとの英会話教室
- ・地域ボランティア活動
- など